

平成 25 年 11 月 25 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名
 東京都渋谷区恵比寿四丁目 1 番 18 号
 恵比寿ネオナート
 ジャパン・ホテル・リート投資法人
 代表者名 執行役員 伊佐 幸夫
 (コード番号: 8985)

資産運用会社名
 ジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 博之
 問合せ先 取締役経営企画室長 有働 和幸
 TEL: 03-6422-0530

2013 年 10 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・リート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2013 年 10 月度におけるホテルの運営状況につき、月次売上高並びにホテル宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。

本投資法人は変動賃料等の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人等から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		10月度	対前年同月 増減(注7)	累計(注8)	対前年累計増減 (注9)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	86.3%	1.1%	80.5%	1.4%
	ADR (円)	14,047	-476	14,093	186
	RevPAR (円)	12,123	-255	11,352	344
	売上高 (百万円)	475	-22	4,182	-220
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	98.6%	2.4%	95.8%	2.3%
	ADR (円)	21,534	3,212	19,579	2,527
	RevPAR (円)	21,242	3,617	18,758	2,812
	売上高 (百万円)	664	64	5,788	289
なんばオリエンタルホテル	稼働率	93.9%	-0.1%	91.8%	4.9%
	ADR (円)	10,983	1,270	10,601	745
	RevPAR (円)	10,317	1,187	9,731	1,165
	売上高 (百万円)	167	8	1,613	87
ホテル日航アリビラ	稼働率	79.6%	-6.6%	80.3%	5.1%
	ADR (円)	17,861	190	26,091	-62
	RevPAR (円)	14,215	-1,019	20,954	1,289
	売上高 (百万円)	388	-24	4,701	254
オリエンタルホテル広島	稼働率	79.6%	4.2%	76.3%	5.3%
	ADR (円)	8,492	148	8,448	245
	RevPAR (円)	6,760	468	6,450	623
	売上高 (百万円)	196	11	1,790	91
上記 5 ホテル合計	売上高 (百万円)	1,891	36	18,074	502

ホテル／項目		10月度	対前年同月 増減(注7)	累計(注8)	対前年累計増 減(注9)
イビス東京新宿(※)	稼働率	95.2%	18.3%	93.0%	8.8%
	ADR (円)	10,481	1,053	10,116	1,076
	RevPAR (円)	9,979	2,727	9,406	1,799
	売上高 (百万円)	71	20	656	136

※イビス東京新宿の売上高はテナント賃料を除くホテル部分のみの売上です。

10 月度の実績に関するジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、柔軟な価格施策により国内外のレジャー需要を積極的に取り込んだ一方で、学会等のビジネス需要が前年を下回ったため、売上は前年同月を下回りました。料飲部門では、レストラン売上及び一般宴会売上は前年同月を上回ったものの、婚礼売上が婚礼宴会件数の減少により前年同月を下回ったため、部門全体の売上は前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約22百万円下回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイについて

宿泊部門では、東京ディズニーリゾートの30周年イベントによる集客効果が継続する中、ADRを高める戦略が奏功し、売上は前年同月を上回りました。料飲部門では、レストラン売上が前年同月を上回り、部門全体の売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約64百万円上回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、国内レジャー客及び外国人客需要が増加する中、好調な予約状況からより高い販売価格を設定し、稼働率を維持しつつADRを増加させ、売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約8百万円上回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、マーケットが好調に推移する中、需要に応じた価格施策を実施し、予約状況は好調に推移していたものの、当月に発生した台風によるキャンセルが発生したため、売上は前年同月を下回りました。料飲部門では、レストラン売上が台風の影響により前年同月を下回り、結果として、ホテルの総売上は前年同月を約24百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、国内レジャー客を中心に集客を図り、稼働率及びADRを増加させ、売上は前年同月を上回りました。料飲部門では、レストラン売上及び一般宴会売上が前年同月を下回ったものの、婚礼売上が前年同月を上回ったため、部門全体の売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約11百万円上回りました。

イビス東京新宿について

宿泊部門では、オペレーターの自社予約サイトを中心とした外国人客需要の取り込みに加え、国内レジャー客のADRを高める戦略が奏功し、稼働率及びADRを増加させ、また、前年同月は客室改装工事の影響があったため、売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約20百万円上回りました。

注 1) 上記のコメントは資産運用会社が貸借人等から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、資産運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ていないため、各月を合計した金額は、後に提出する有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

- 注 3) 稼働率：対象期間の販売客室数を同期間の販売可能客室数で除した数値をいいます。
- 注 4) ADR：平均客室販売単価 (Average Daily Rate) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計 (サービス料を除きます。) を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。なお、イビス東京新宿はサービス料はありません。
- 注 5) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上 (Revenue Per Available Room) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 6) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。
- 注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。
- 注 8) 累計とは期首 (1月) から当該月までの累計値を記載しています。
- 注 9) 対前年累計増減とは、期首 (1月) から当該月までの累計値と前年同期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.co.jp/>